

[1] a と b を実数とします. 方程式

$$(*) \quad x^3 + ax^2 + bx + a = 0$$

が $x = 1 + 2i$ (i は虚数単位) を解に持つとすれば, 方程式 (*) は実数解

$$x = \frac{\boxed{(1)} \boxed{(2)}}{\boxed{(3)} \boxed{(4)}}$$

を持ち,

$$a = \frac{\boxed{(5)} \boxed{(6)}}{\boxed{(7)} \boxed{(8)}}, \quad b = \boxed{(9)} \boxed{(10)}$$

となります. このとき, 複素数平面において方程式 (*) の 3 つの解を頂点とする三角形の外接円の中心は

$$\frac{\boxed{(11)} \boxed{(12)}}{\boxed{(13)} \boxed{(14)}} + \boxed{(15)} \boxed{(16)} i$$

です. また, この外接円上の点 z は

$$z\bar{z} - \frac{\boxed{(17)} \boxed{(18)}}{\boxed{(19)} \boxed{(20)}} z - \frac{\boxed{(21)} \boxed{(22)}}{\boxed{(23)} \boxed{(24)}} \bar{z} + \frac{\boxed{(25)} \boxed{(26)}}{\boxed{(27)} \boxed{(28)}} = 0$$

を満たします. ただし \bar{z} は z の共役な複素数を表します.

[2] AさんとBさんが次の3つの規則 [ア], [イ], [ウ] に従ってゲームを行います。

[ア] 2人がそれぞれ1枚の硬貨を1回投げます。

[イ] 両者で異なる面が出た場合には表を出した人が1点を獲得します。

[ウ] 両者で同じ面が出た場合には共に0点とします。

このゲームを5回繰り返し行い、先に2点を獲得した人を勝者とします。5回以内で勝者が決まらなかった場合には引き分けとします。

(1) ちょうど3回目でAさんが勝者となる確率は

$$\frac{\begin{array}{|c|c|} \hline (29) & (30) \\ \hline \end{array}}{\begin{array}{|c|c|} \hline (31) & (32) \\ \hline \end{array}}$$

です。

(2) 5回以内で勝者が決まる確率は

$$\frac{\begin{array}{|c|c|} \hline (33) & (34) \\ \hline \end{array}}{\begin{array}{|c|c|} \hline (35) & (36) \\ \hline \end{array}}$$

です。

[3] a と b を実数とします. 2次関数 $f(x)$ を

$$f(x) = x^2 + ax + b$$

とし, $y = f(x)$ のグラフが次の条件 [ア], [イ] を満たすものとします.

[ア] $y = f(x)$ のグラフと $y = 2x^2 + 1$ のグラフの共有点の個数は 1 以下である.

[イ] $y = f(x)$ のグラフの頂点は, 不等式 $y \geq x$ の表す領域に属する.

(1) $y = f(x)$ のグラフのうち, 頂点の x 座標が最大となるのは

$$f(x) = x^2 + \boxed{(37)} \boxed{(38)} x + \frac{\boxed{(39)} \boxed{(40)}}{\boxed{(41)} \boxed{(42)}}$$

のときです.

(2) $y = f(x)$ のグラフのうち, $f(0)$ が最小となるのは

$$f(x) = x^2 + \boxed{(43)} \boxed{(44)} x + \frac{\boxed{(45)} \boxed{(46)}}{\boxed{(47)} \boxed{(48)}}$$

のときです.

(3) $y = f(x)$ のグラフのうち, 頂点の y 座標が最小となるのは

$$f(x) = x^2 + \boxed{(49)} \boxed{(50)} x + \boxed{(51)} \boxed{(52)}$$

のときです.

[4] a と b を実数とし, 3次関数 $f(x)$ を

$$f(x) = x^3 + ax^2 + bx$$

とします.

- (1) $f(x)$ が極大値と極小値の両方を持つための必要十分条件を a と b を用いて表してください.
- (2) $f(x)$ が $x = \alpha$ で極大値をとり, $x = \beta$ で極小値をとるとします. $f(\alpha) - f(\beta)$ を a と b の簡単な式で表してください.
- (3) $S = \{(a, b) \mid a \geq -1 \text{ かつ } b \leq -1\}$ とします. (a, b) が S 内を動くとき, $f(\alpha) - f(\beta)$ の最小値を求めてください.

[5] 数列 $\{a_n\}$ が次の条件

$$a_1 = 1, \quad a_{n+1} = 2a_n^2 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

を満たすとします.

(1) a_n を n を用いて表してください.

(2) $a_n < 10^{60}$ となるような自然数 n は全部で何個ありますか.

ただし, (2) では $\log_{10} 2 = 0.3010$ として計算してください.

[6] 日吉キャンパスと三田キャンパスをつなぐ長さ 20 km の道路があるとします。K 教授と O 教授は同時刻に日吉キャンパスを出発します。K 教授は自転車に乗って 10 km/時 の速さで三田キャンパスまで行きます。O 教授は次の 3 つの規則 [ア], [イ], [ウ] に従って日吉キャンパスと三田キャンパスを自動車ですべて 1 回往復します。

[ア] 日吉キャンパスを出発して三田キャンパスに着いたら 1 時間三田キャンパスで仕事をして、その後日吉キャンパスへ帰ります。

[イ] 日吉キャンパスを出発して三田キャンパスでの 1 時間の仕事を含めてちょうど 2 時間後に日吉キャンパスに戻ります。

[ウ] 行きと帰りの速さは異なってもかまいませんが、行きの速さ、帰りの速さはそれぞれ一定で、 60 km/時 以下とします。

日吉キャンパスを出発してから t 時間後に K 教授は日吉キャンパスへ帰る O 教授とすれ違ったものとします。

(1) O 教授が日吉キャンパスを出発してから T 時間後に三田キャンパスに着くとして、 t を T を用いて表してください。

(2) t のとりうる値の範囲を求めてください。